

JDS主催「キックオフ集会」でスタートを切った 2016年「世界ダウン症の日」「ダウン症啓発月間」

2月20日(土)に東京・豊島区にある大正大学8号館で、JDS主催「2016年 世界ダウン症の日『マイフレンド・マイコミュニティ』キックオフ集会」を開催しました。

JDSでは、国連が3月21日「世界ダウン症の日」を国際デーとして制定した2012年以来、毎年、この日の近辺に東京都内で記念イベントを行ってきましたが、今年は1カ月早い開催。会場ロビーには、今後実施が予定されている各地の3/21関連事業(事業数は過去最多の23)のチラシやイベントマップを掲示し、3月の「ダウン症啓発月間」に向け、文字通りの“キックオフ”(開始)となりました。

当日は、あいにくの雨でしたが、天候とは裏腹に会場は晴れやかな雰囲気になりました。今回の司会は、ご自身もダウン症のあるお子さんの親である龍円愛梨さん(元テレビ朝日アナウンサー・報道)で、以下のような玉井代表理事の挨拶で集会が始まりました。

「国連により『世界ダウン症の日』が制定されて5年目を迎えた今年は、全国各地で開催される関連事業を“地域と仲間”をテーマに、JDSとして応援する形になった。

JDSは現在、2017年秋に第1回「日本ダウン症会議」(仮称)という学際的な会議を目指し準備をしている。当事者団体・支援者・研究者が、それぞれの視点で、ダウン症のある人たちへのこれからの支援のあり方を共に研究していきたい。

また、『アジア太平洋ダウン症連合会議』『世界ダウン症会議』を日本に招致することを大き

な目標に活動をしていきたい。

“明日生まれてくるダウン症のある子が、今日生まれたダウン症のある子よりほんの少しだけ幸せに近づけるように”——その理念を掲げて活動を進めていきたい。」

続いて厚生労働省・大西延英氏、文部科学省・丹野哲也氏、外務省・尾崎健氏からご挨拶を頂き、23名の来賓のご紹介がありました。

その中で、昨年と今年のダウン症啓発ポスターを作成していただき、2013年には無償で記念イベントの演出に協力して下さった有限会社エレメンツ代表取締役社長の野村昌史氏に感謝状の贈呈がありました。

続いて、本人発表として高倉正樹著『アイちゃんのいる教室』の主人公、武田愛さん(宮城県)が「私の今」と題して、小学6年生になった現在の家族・学校・趣味・将来の夢などを楽しくそのうちに、時には笑いを誘いながら発表。休憩中、



受付、頑張りました!



司会の龍円愛梨さん



しっかり発表した武田愛さん



集会を締めた峰尾紗季さん

ロビーでは愛さんのサイン会が行われ、長い列がありました。

第1部の最後は、障害のある人たちと健常の人たち28名が所属する「ホットジェネレーション」による“勇気と希望のパフォーマンス”。オリジナルミュージカルより「ドリームカム トゥルー」「丸い地球を見に行こう」でした。ダウン症のある人たちも大勢出演し、みんな自信満々で、喜びに満ちたパフォーマンスを披露して会場を沸かしてくれました。

会場には小さいお子さん連れの若いお父さん・お母さんもみえていましたが、第2部の菅野敦先生の講演「ライフステージに応じた支援を考える」は、小さいお子さんのご両親にもしっかり届いたのではないのでしょうか。

最後は、社会人の峰尾紗季さん（24歳・東京都）の挨拶で無事閉会となりました。

今回の集会開催に当たりご支援・ご協力をいただいたすべての皆様に感謝いたします。

【事務所相談員：明 千恵】

＜菅野先生の講演「ライフステージに応じた支援を考える」の概要をp 10・11に掲載しています＞



JDSアピール文を読み上げた阿部佳帆さんと渡辺拓くん



元気いっぱい歌って踊った「ホットジェネレーション」



休憩時間に mini ブック等の販売で賑わっていたロビー